



2008年3月2日 第28回京葉オリエンテリングクラブ幕張 佐倉二日間大会

トレイル0の指定大会というのはフットでいえば公認大会に相当する大会。Aクラスで8位までに入ればその年度の全日本選手権大会のEクラスへの出場権が得られる大事な大会である。

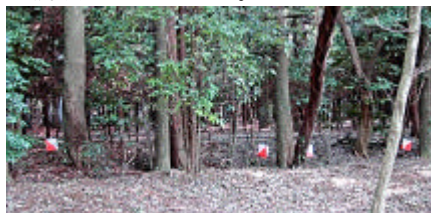
2008年3月2日

第28回京葉オリエンテリングクラブ  
幕張 佐倉二日間大会 トレイル0

### 超難解タイムコントロール

スタート直後にタイムコントロールが設定されていた。しかしこれが大変にむずかしい設定。大小数本の樹木があり、そのうちの3本が独立樹として表記。「真ん中の独立樹、南西側」というものであった。

正解率は10%、でたために答えても確率的には20%にはなるはずなのに、とぼやきたくなる。その中で1位になった大久保裕介が15.5秒、2位の山口拓也が28.5秒で正解を出しているのには驚嘆するほかない。



### 自然を活かしたコース

トレインとなった草ぶえの丘は杉・桧の植林と照葉樹からなる平地林であり、林内には未舗装の小道が適度に走っている。透視可能度も良好な部分が多く、トレイル0には絶好のトレインである。

この大会は、フラッグの設置場所がほとんどすべて植生界やこぶ、尾根などの自然由来の特徴物であり、コースも自然の中にあり、人工物を見ることがなかったのは非常に珍しいことだ。

全問正解は2人で、正解率もTCを除

いてはそれほど低いコントロールはなく、また極端に高いコントロールもなく、全体としてはちょっと易しめだが、ほぼ適当だったといっているのではないだろうか。

ただコントロールのキャンセルが出たのは理屈なしに残念なことである。せっかく時間をかけ、努力して設定したコントロールが除外されてしまうのはもったいないことである。

ミスにもいろいろあり、対策がむづかしいものもあるが、今回のようなミスは今あるシステムをきちんと運用すれば簡単に防げると思うので、一層の努力を望みたいものである。

### 大久保優勝・山口2位

大会は大久保裕介(ES 関東C)が全問正解で1位、同じく全問正解で2位に山口卓也(札幌農学校)が入った。

大久保は言うまでもなく昨年度の日本トレイル0チャンピオンであり、かつ昨年の世界選手権(ウクライナ)の日本代表として入賞、さらに今年も代表に選ばれている文字通りの日本のトップエリートである。この成績もさすがというかやはりというか、立派なものである。

2位の山口も一昨年の世界選手権(フィンランド)にオフィシャルとして参加し、今年の世界選手権でも補欠に選ばれている上位エリートである。

トレイル0には強豪がひしめき、順位も絶えず入れ替わるが、まずこの2人の全問正解での1,2位は順当な成績だったのではないだろうか。

順位	氏名	所属	得点	タイム
1	大久保裕介	ES 関東C	12	15.5
2	山口拓也	札幌農学校	12	28.5
3	茅野耕治	ワダラーズ	11	76
4	木村治雄	入間市 OLC	11	82.5
5	鈴木規弘	多摩 OL	11	91.5
6	田代雅之		11	104.5
7	小山太郎	サン・スー	10	56.5
8	大塚校市	千葉 OLK	10	85
	小泉辰喜	東京 OLクラブ	10	85



### 手ごたえのあるコース

複数ある植込みの方位の問題。出だしの小手調べには適当か。

見通しの極めてよい林の中の小道の終わり。ところが地面いっばいに厚く積もった落葉で小道はまったく見え、それほど簡単ではなかった。縦に2つ並んだ小凹地を使った正解なしコントロール。正解なしではないかと自問するのを忘れなければそれほどむづかしくはない。道に平行な浅い尾根と沢にフラッグがあり、はっきりした確定方法はないが地図をよく読めば正解は出るだろう。オーソドックスな良い問題。正解率は90%で、とともにコース中で最高をマーク。



やぶが視界をさえぎって植生界が見えず、いらいら気味。時間が掛かってしまった。

道からすぐのところにある植生界の分岐。

位置説明ではA-Dとなっていたが、実際にはフラッグが5つ置かれていたため、キャンセルとなった。それに気が付かずにいた競技者が何人かいたようだ。私もフィニッシュして指摘されて初めて気付く始末。折角正解なしにパンチしたのに残念。

、は低い土塁、こぶ、小さいみぞを読み解く面白い問題。

クリアリング、の穴、の独立樹の方位はいずれも素直な問題で正解率も比較的高かった。



(高橋 厚)